



学校だより

横浜市立朝比奈小学校

令和5年11月29日
第8号



～段ボールに過ぎ去りし秋を感じて～

校長 大野 幸二

季節外れの暑さが過ぎ去ったと思いきや、突然の冬将軍到来。いったいスポーツの秋、読書の秋、芸術の秋はいずこへ行ったのでしょうか。「地球沸騰化」により、年々、わが国の四季をそれぞれに味わうことが難しくなっている今日この頃です。その中であって、朝比奈小は毎年「芸術の秋」を全校児童が体感する機会をいただいているのでご紹介します。

本校では、19年前から市民図書のメンバーによる「段ボール劇団」の学校公演が毎年あります。劇団のモットーは、「創意と工夫（考える・作る・伝える）」です。家庭から出る不用品を活用して舞台を作り発表するというSDGsにつながる素晴らしい取り組みです。今年も1か月前から準備を重ね、各学年ごとに計7度の公演を行っていただきました。今年の演目は古典「竹取物語」でした。

< 6年生児童の感想（※抜粋） >

○1年生のとき、初めて段ボール劇団を見たときには、とてもびっくりしました。私は今でも市民図書の段ボール劇団が大好きです。この体験は宝物です。中学生になっても6年間を思い出して忘れないようにしたいです。

○1年生のときとは違うことを感じとれました。使わなくなった物やいらぬ物にたくさんの工夫をしたら、こんなに楽しい劇が作れるんだなと感心しました。この活動は、SDGsにもつながります。来年も朝比奈小のみんなをぜひ楽しませてください。

○6年間、毎年すてきな劇をありがとうございました。いろいろなアイデア、工夫した表現、息の合ったタイミング、気持ちのこもったセリフ、場面にあった声のトーン、時代が伝わってくるナレーション、物の細やかさ、ライトの当て方、小道具の色合い、物話にあったきれいな音楽（雅楽）、立体的な背景、全部がすごいです。新しく入ってくる1年生にも凄さが伝われば良いなと思います。

○目を疑うほどのできばえでした。皆さんの息があって、たくさん練習したんだなあと思いました。「竹取物語」そのままの世界観に入れました。古いものを大切にしながら現代らしさを表現する工夫が素晴らしいです。最後のかぐや姫の言葉には涙が出そうになりました。「考える・作る・伝える」のモットーは、すごかつこう良いなと感じました。すてきな劇を見せて下さったことを本当に感謝しています。

○6年間見てきて感じたこと。ものをいろいろな角度から見ることで、自分で創造して人に楽しさを伝えること、この大切さを中学校でも生かしていきたいです。皆さんに勇気をもらうことができました。私も皆さんのように人に喜ばれるものを作りたいです。

